

検査情報月報



2013
2013
4月

横浜市衛生研究所

平成25年4月号 目次

【トピックス】

平成24年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)	1
平成24年度 食品等の苦情品検査(10～3月)	3
魚介類中の食品汚染物検査	9

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年3月	10
------------------------------	----



【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年3月分)	14
-------------------------------	----

平成24年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成24年10月から平成25年3月の種類同定検査件数は、88件でした。内訳は昆虫類3件(ゴキブリ目1件、チョウ目1件、ハチ目1件)、その他の節足動物85件(クモ類38件及びその卵囊46件、多足類1件)でした。神奈川県内においてセアカゴケグモが発見されたことに伴い、市内におけるクモ類の生息調査を行った結果、以前より生息しているハイロゴケグモは確認されましたが、セアカゴケグモの生息は確認されませんでした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
洗面台付近に虫がみられる	 成虫、淡褐色、約12mm	チャオビゴキブリ (ゴキブリ目)	体色は淡い褐色。国内では小笠原父島に分布しているが、それ以外の地域においてもまれに確認されている。
部屋の中にガがみられる	 成虫、茶褐色、約10mm	バンメダラメイガ (チョウ目)	幼虫は米などの穀物、ナッツ、チョコレート、香辛料など多くの貯蔵食品、乾燥食品を食害する。 世界共通種で、広く日本に分布する。
屋内に多数の羽アリがみられる	 有翅虫(雄)、黒褐色、約2mm	フタフシアリ亜科 (ハチ目)	結婚飛行に飛び立った有翅虫(雌、雄)の中で飛行を終えた多くの雄が灯火に飛来したものの。
市内におけるクモ類の生息調査	 成体、灰褐色、約12mm(雌)	ハイロゴケグモ (クモ目)	腹部にゴケグモ類特有の赤い斑紋(砂時計型)がみられた。
	 卵囊、黄白色、約10mm	ハイロゴケグモの卵囊 (クモ目)	卵囊はハイロゴケグモ特有の金平糖型であった。


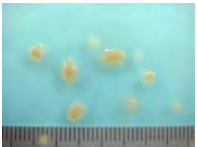
相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
市内におけるクモ類の生息調査	 <p data-bbox="438 461 699 495">成体、黒褐色、約4mm</p>	その他のクモ類 (クモ目)	ゴケグモ類特有の赤い斑紋(砂時計型)が腹部にみられなかった。
敷物に虫の体の一部がみられた	 <p data-bbox="528 732 612 766">茶褐色</p>	多足類の一種 (倍脚綱)	落ち葉層や土壌、朽木、石の下などに生息する。徘徊性の動物で、主として夜間活動性である。腐食質、菌類などを食べる。

【 検査研究課 医動物担当 】

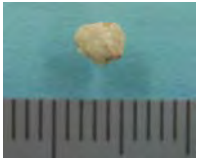

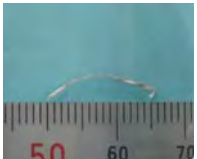

平成24年度 食品等の苦情品検査(10～3月)

-食品添加物担当で行った理化学検査-

平成24年度下半期に、福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物担当へ搬入された検体は30件39検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多く見られました。理化学検査を中心に行ったうち主な検体の検査結果は次のとおりです。



品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ビビンバ中の異物(給食) 	ビビンバを食べていたところ、肉の固まりの中から紙のような異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ3.5cm×2.4cm、2.2cm×2.4cm、重さの合計0.2g。茶褐色で柔軟性のある薄い紙様の異物。片面には縞模様、反対面には格子模様の織り目が認められた。また、辺縁には直線的な部分と引きちぎられたような部分がみられた。 繊維が編み込まれたような構造が認められ、洗浄すると白色になった。 細長い繊維が立体的に絡み合っていた。 セルロースに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陰性 植物片と推定され、対照品のペーパータオル(肉の製造者のもの)と外観や性状が良く似ていた。
コーヒー飲料中の異物 	茶色い2mm前後の柔らかい異物が浮遊していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 ニンヒドリン反応 結果	大きさ1mm～5mm前後の茶色の柔らかい固まりを複数個認めた。 茶色の固まりをマイクロスコープで拡大すると、柔らかい半固形状であり、乾燥すると薄くて平たい固形状になった。さらに水で洗浄したところ白色になった。 顕微鏡で観察したところ、粒子が集合した状態を認めた。なお、カビ等の菌糸や胞子は認められなかった。 デンプンとタンパク質の混合物と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 陽性 デンプンとタンパク質の混合物と推定された。
杏仁豆腐の素	商品開封時に変なにおいがして、食べた後に体調不良(胃のむかつき、下痢)になったとの届け出があった。	外観 官能検査 過酸化価 結果	白色の粉末。 3名で実施したところ、油の酸化臭を認めた。 150 meq/kg 当該品は、商品の一部に酸化による品質劣化があったために自主回収していた品であり、原因は油脂の劣化による異臭および胃腸症状と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
食パン中の異物 	食パンの封を開封したところ、パンの上に灰色の破片がのっていた。	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	大きさ30mm×4.5mm、重さ57mg。扁平な部分と凹凸な部分からなる灰白色の異物。 扁平な部分と剥離片が重なり合うささくれ立った部分を認めた。所々に繊維が寄り集まる箇所がみられた。 ポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。対照品(古い番重)と同様の赤外吸収スペクトルであった。 ポリプロピレンと推定された。
クリームたい焼き中の異物 	購入したたい焼きを食べたところ、酸っぱく感じた。良く見るとクリームあんに白い固まりが入っていた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 ニンヒドリン反応 溶解性 燃焼性 結果	クリームたい焼きの食べかけ部分に、クリームに付着した7mm程度の白い固まりを認めた。また、その付近のクリームにも同様の白い固まりを複数認めた。取り出した白い固まりは非常に柔らかく、力を加えると簡単に形がくずれた。 白い固まりをメチレンブルーで染色して観察したところ、細かい凹凸を多数認めた。 50μm以下の粒子の集まりを認めた。 炭素および酸素の元素を認めた。 クリームたい焼きの生地、クリームおよびデンプンに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 陰性 水に不溶であった。 加熱すると炭水化物を焦がしたような臭いを発し、炭化した。 デンプンを主成分とする有機物の固まりと推定された。
鶏五目おにぎり中の異物 	鶏五目おにぎりを食べていたところ、1mm程度の棒状の異物が口内に刺さった。	外観 鏡検 リグニン反応 燃焼性 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	長さ13mm×幅2mm、淡黄色で平らな棒状の硬い物質。 表面には多数の細かい筋があり、一端は刃物で切断されたような断面で、もう一方の端は繊維状のものがささくれだっていた。 陰性 検体の一部を熱すると、タンパク質を焼いた時と同様の匂いを発しながら燃え、白い灰となった。 炭素、酸素、窒素、カルシウム、リンの元素を認めた。 鶏の骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。また、灰化後のものは鶏の骨を灰化したものと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 骨の欠片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ハンバーグ中の異物 	宅配弁当のハンバーグから白い米粒状の異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 リグニン反応 結果	大きさ5mm×4mm、厚さ1.5mm、重さ20.5mg、黄褐色を帯びた白色(こげ茶色の部分も有り)の硬い物質。 異物の表面には凹凸があり、ささくれ立った部分も観察された。 異物の内部に空洞部分が観察された。 炭素、窒素、酸素、リン、カルシウム等の元素を認めた。 豚の骨と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 陰性 骨と推定された。
シチュー中の異物 	給食のシチューに骨のような異物が混入していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 Ca定性 結果	大きさ17mm×6mm、重さ0.10gの白色骨様の異物。 表面に多数の細かい筋を認めた。 表面全体に0.1mm程度の空洞および微細な穴を多数認めた。 酸素、炭素、カルシウム、リン、窒素等の元素を認めた。 骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。また灰化後のものは、骨を灰化したものと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 塩酸を加えると発泡した。 骨と推定された。
釜揚げシラス中の異物 	購入したシラスを食べたところ、口内に異常を感じた。出してみると針金様の異物2個を発見した。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 磁性 結果	①長さ8mm×幅1.5mm、重さ1.6mgのまっすぐな金属様異物。②長さ16mm×幅1.5mm、重さ4.7mgの所々ねじれた金属様異物。 表面に白色の塗装を認めた。また、側面および塗装がはがれた部分に金属光沢を認めた。 白色塗装部分から、チタンの元素を認めた。また金属光沢部分から、アルミニウムの元素を認めた。 磁性は認められなかった。 チタンコーティングされたアルミニウム製の金属と推定された。
おはぎ中の異物 	おはぎを食べたところ、異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	大きさ12mm×10mm×4mm、重さ0.73g。扁平で丸みを帯びた黒色の硬い石様異物。水で洗浄すると、全体的に灰緑色で、所々に茶色の斑点模様を認めた。 顕微鏡で拡大して観察すると、白色の結晶を認めた。 表面の所々に細かい結晶の固まりを認めた。 主成分として酸素およびケイ素を認めた。 鉱物(石)と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
餃子中の異物 	餃子を食べたら、硬いものが歯に当たり、痛めた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 結果	大きさ5mm×3.5mm、4mm×3mm、重さ9mg、5mg、薄茶色で三角形の固まり2個。片方はひび割れていた。 表面は淡黄色～濃茶色で色ムラがあり、細かな凹凸が認められた。乾いている状態では堅いが、水に浸すとふやけポロポロと崩れた。 多数の細かな粒子が凝結した構造が認められた。 炭素、酸素の元素を認めた。 異物と共に搬入された餃子の皮および当所で用意した薄力小麦粉と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 小麦粉の固まりと推定された。
ハンバーグ中の異物 	スーパーで購入したハンバーグから異物が発見された。	外観 鏡検 燃焼性 赤外分光分析 結果	大きさ13mm×9mm、重さ8mgと大きさ17mm×6mm、重さ9mgの2個の淡黄色で不定形の薄膜状異物。所々に一方向に走る細かいスジを認めた。当所で用意したタマネギ(皮に近い部分)に類似していた。メチレンブルー染色すると、タマネギに類似した細胞構造を認めた。 加熱するとタマネギの臭いを発し、炭化した。 タマネギ(セルロース)と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 タマネギの一部と推定された。
牛乳パック中の異物 	飲み終わった紙パックを、洗浄して乾燥させたところ、白いフィルム状のものが出てきた。	外観 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 ニンヒドリン反応 溶解性 Ca定性 結果	大きさは微小なサイズ～5mm×10mm程度で、白色の薄い卵殻様物質が多数認められ、総重量0.3gであった。 カルシウム、リン、酸素等の元素を認めた。 灰化後のものは、リン酸カルシウム(リン酸三カルシウム)と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 加熱すると灰色～黒色に変化し、タンパク質の焦げたような臭いを発した。 陽性 水に不溶であった。 塩酸を添加すると、発泡しながら溶解した。 異物はリン酸カルシウムが主成分で、タンパク質を少量含有していると推定された。
食パン中の繊維状異物 	食パンの生地の中の気泡の中に、パンの生地と同色の細い繊維状のものがあつた。	外観 鏡検 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 結果	長さ1.3cm、太さ0.5mmの白色繊維状の異物。全体的に透き通った白色で、先端は枝分かれをしていた。 パン生地部分と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 パン生地が糸状構造になったものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
レトルト食品中の異物 	レトルト食品を加熱し、ごはんにかけて食べたところ、ゴム様の異物が出てきた。	外観 性状 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 燃焼性 ニンヒドリン反応 キサントプロテイン反応 ビュレット反応 赤外分光分析 結果	幅2.3mm、厚み0.7mm、長さ23mmと8.5mm、重さ66mgと14mg。茶褐色で細長い帯状の物質。 水に浸すと柔らかくなり弾力性があったが、乾燥すると硬くなった。 切断された箇所に繊維質を認めた。 繊維組織が凝集した構造が認められた。 主に炭素、酸素、窒素の元素を認めた。 タンパク質を燃やしたような臭いを発し、燃えた。 陽性 陽性 陽性 タンパク質と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 タンパク質の固まりと推定された。
シラス干に入っていた透明硬質片 	シラス干からガラスかプラスチック片と思われる硬質片が出てきた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ5mm×5mm×2mm、重さ0.03g、四角形の透明な硬い物質。 表面は滑らかだが、所々欠けたような部分があり、細かい筋が認められる所もあった。 炭素と酸素の元素を認めた。 ポリメタクリル酸メチルと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリメタクリル酸メチル(アクリル樹脂)の欠片と推定された。
まぐろ寿司中の異物 	まぐろ寿司を購入して自宅で食べたところ、骨のような異物が発見された。	外観 鏡検 燃焼性 赤外分光分析 マイクロアナライザー ニンヒドリン反応 Ca定性 結果	大きさ14mm×5.3mm、厚さ1.2mm、重さ42mgの白色で硬い不定型な薄片。 表面には凹凸があり、所々に空洞を認めた。 加熱するとタンパク質の燃えたような臭いを発して黒くなり、さらに加熱すると白く炭化した。 対照品のまぐろの骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。また、炭化後のものはリン酸カルシウムと類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 炭素、酸素、カルシウム、リン、窒素の元素を認めた。 陽性 塩酸を加えると発泡した。 骨の欠片と推定された。
ミートソース中の異物 	家庭で調理したミートソースに異物が混入していた。	外観 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 結果	大きさ18mm×19mm、重さ0.70g、黄褐色の柔らかい部分と乳白色の硬い部分からなる物質。 異物表面に多数の穴を認めた。 炭素、酸素、窒素等の元素を認めた。 豚の骨と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 タンパク質を含有する有機物と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
肉まん中の異物 	冷凍肉まんを購入して、家で調理したところ、異物が入っていた。	外観 鏡検 赤外分光分析結果	長さ12mm、外径9mm、内径6～8mm、厚み1.5mm、重さ0.3gの黄色いプラスチック様の円筒形異物。一端は丸く閉じられており、もう一端は斜めに切断された状態であった。 表面を拡大すると、外側の部分には滑らかで均一な細かい凹凸が認められたが、内側の部分は比較的平滑であった。 ポリエチレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。ポリエチレン製のプラスチック片と推定された。
カキ中の異物 	殻付カキに異物が混入していたとの苦情があった。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ10.3mm×4.6mm、重さ0.26gの白色で変形楕円体状の固まり。 表面には淡黄色の縞模様があり、白色部分を拡大すると色調に濃淡があり、全体的にざらつきを認めた。 先端には小さな穴があり、その周辺を拡大すると微細な空洞を多数認めた。 炭素、酸素、カルシウムの元素を認めた。炭酸カルシウムと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 炭酸カルシウムの固まりと推定された。
かんぴょう巻に付着した異物 	スーパーで購入したかんぴょう巻に、白い繊維状のものが付いていた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 リグニン反応 結果	長さ35mm、太さ0.1mm～0.2mm、重さ0.6mg。淡黄白色の繊維状異物。 水に漬けると膨張してゼリー様の形状を示し、ちぎれ易くなった。 表面には一方向に細かな筋を認めた。なお、毛髪に存在するキューティクルを認めなかった。 炭素、窒素、酸素の元素を認めた。 タンパク質と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 陰性 タンパク質の繊維と推定された。
いなり寿司中の異物 	いなりを食べていたところ、白い毛髪のようなものが出てきた。	外観 鏡検 赤外分光分析 リグニン反応 結果	長さ4.3cm、太さ0.1mm～0.3mm、重さ0.8mgの白色透明な繊維状物質。 表面を拡大すると、細かな筋を多数認めた。異物の一部をメチレンブルーで染色したところ、細い繊維が集まった状態を観察した。 植物繊維(セルロース)に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 植物の繊維と推定された。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

魚介類中の食品汚染物検査



【PCB検査】

平成24年5月、10月及び11月に中央卸売市場で収去した市内に流通する魚介類17種20検体について、PCBの検査を行いました。その結果、5検体からPCBを検出しました(表)。しかし、検出された値は暫定的規制値以下でした。

表 PCBの検査結果

単位: ppm

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類 (可食部)	ギンザケ	1	0	不検出	0.5
	ゴマサバ	1	1	0.05	
	サンマ	1	0	不検出	
	ヒラメ	1	0	不検出	
	マイワシ	1	0	不検出	
	マサバ	1	0	不検出	
内海内湾魚介類 (可食部)	アカカマス	1	0	不検出	3
	キジハタ	1	0	不検出	
	クロムツ	1	0	不検出	
	スズキ	1	1	0.06	
	ババガレイ	1	0	不検出	
	ブリ	2	1	0.02	
	マアジ	3	0	不検出	
	マコガレイ	1	1	0.03	
	マダイ	1	1	0.01	
	メジナ	1	0	不検出	
	ヤリイカ	1	0	不検出	
計	20	5	—	—	

(検出限界 : 0.01ppm)

【メチル水銀検査】

平成24年3月に中央卸売市場本場食品衛生検査所で行った魚類の総水銀検査で、アカガレイ1件から暫定的規制値(0.4ppm)を超えた総水銀が検出されました。

魚介類の水銀の暫定的規制値は総水銀としては0.4ppm、メチル水銀は0.3ppm(水銀換算濃度)です。そのため、衛生研究所においてメチル水銀の検査を行ったところ、アカガレイからメチル水銀が0.47ppm(水銀換算濃度)検出されました。4月にその結果を、中央卸売市場本場食品衛生検査所に報告しました。



【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 3月

《今月のトピックス》

- 風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

3月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	風しん	50件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	麻疹	1件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

O157 VT2(無症状病原体保有者)1件の報告がありました。就職前健康診断で診断されましたが、周囲に有症状者等は認められませんでした。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

＜レジオネラ症＞

1件の肺炎型の報告がありました。感染経路等について現在調査中です。

＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症1件の報告がありました。ベトナムでの経口感染が推定されています。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞

1件の孤発性の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

AIDSが1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜バンコマイシン耐性腸球菌感染症＞

1件のVanC型 (*Enterococcus gallinarum*) の報告がありました。原疾患は腫瘍による消化管穿孔で、抗生剤長期使用による感染が推定されています。

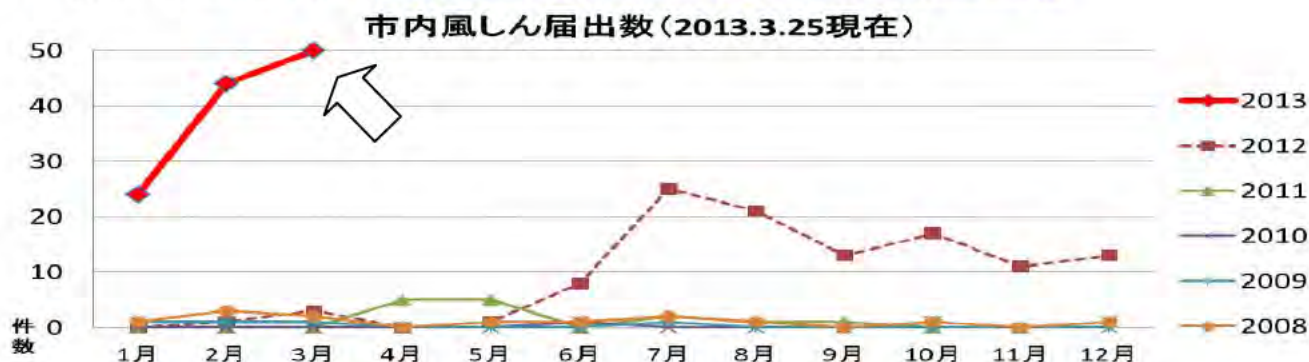
＜風しん＞

50件(男性、女性8件)の報告がありました。3件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。昨年6月以降風しんの流行が続いていますが、今年に入り飛躍的に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています[※]。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆ 横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>



<麻しん>

10歳代の報告が1件ありました。4歳時に麻しんの予防接種歴が1回ありました。発熱、発疹、カタル症状から臨床診断されています。PCR検査は実施できませんでした。周囲に麻しんの感染者はいませんでした。平成25年4月1日より適用となる「麻しんに関する特定感染症予防指針」では、「臨床診断をした時点でまず臨床診断例として届出を行うとともに、血清IgM抗体検査等の血清抗体価の測定の実施と、都道府県等が設置する地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の実施のための検体の提出を求めるものとする」とされています。

定点把握疾患

平成25年2月25日から平成25年3月24日まで(平成25年第9週から平成25年第12週まで。ただし、性感染症については平成25年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第9週	2月25日～ 3月 3日
第10週	3月 4日～ 3月10日
第11週	3月11日～ 3月17日
第12週	3月18日～ 3月24日

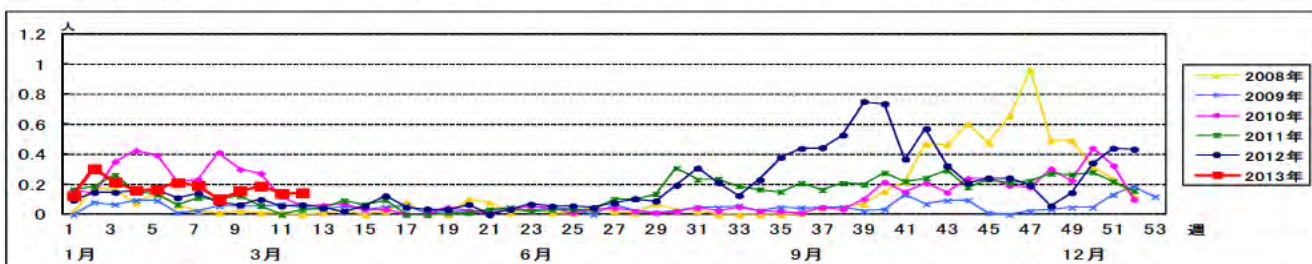
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

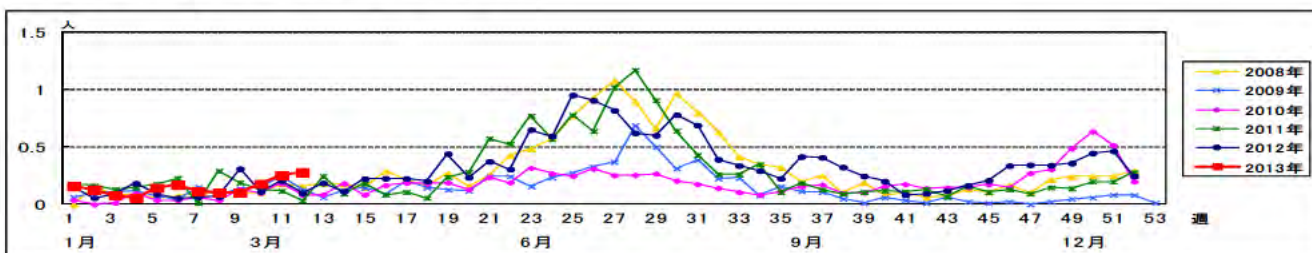
<RSウイルス感染症>

第12週は市全体で定点あたり0.15と、例年に比べやや報告数が多くなっています。RSウイルス感染症は感染力が強く、生後1歳までに70%、2歳までにほぼ100%が初感染を受けると言われています。また、再感染も多く、感染者の1～3%は重症化することが指摘されていますので注意が必要です。



<咽頭結膜熱>

第12週は市全体で定点あたり0.28と、例年に比べやや報告が多くなっています。特に、金沢区で2.60と報告が多くなっており、注意が必要です。



<性感染症>

2月は、性器クラミジア感染症は男性が17件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が16件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第12週では0.58とやや落ち着いてきています。横浜市でも第9週0.33、第10週1.50、第11週1.00、第12週2.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、まだ多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点63件(鼻咽頭ぬぐい液56件、ふん便6件、吐瀉物1件)、内科定点10件(鼻咽頭ぬぐい液10件)、基幹定点2件(鼻咽頭ぬぐい液1件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い含む)23人、上気道炎19人、気管支炎10人、胃腸炎7人、RSウイルス感染症1人、アデノウイルス感染症1人、発疹症1人、中耳炎1人、内科定点はインフルエンザ(疑い含む)9人、上気道炎1人、基幹定点は無菌性髄膜炎1人、気管支炎1人でした。

4月9日現在、小児科定点のインフルエンザ患者14人からインフルエンザウイルス(以下Inf.)AH3型、インフルエンザ患者6人と上気道炎患者2人、気管支炎患者2人、アデノウイルス感染症患者からInf.B型(山形系統)、インフルエンザ患者2人からInf.B型(Victoria系統)、内科定点のインフルエンザ患者3人からInf.AH3型、1人からInf.B型(山形系統)、1人からInf.B型(Victoria系統)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者4人と気管支炎患者2人からライノウイルス(このうち1人はアデノウイルスとの重複)、上気道炎患者1人と気管支炎患者2人、RSウイルス感染症患者1人からRSウイルス、上気道炎患者3人からアデノウイルス、インフルエンザ患者1人と上気道炎患者1人からInf.B型、気管支炎患者2人からヒューマンメタニューモウイルス、内科定点のインフルエンザ患者2人からヒトコロナウイルス、インフルエンザ患者1人からInf.AH3型、上気道炎患者1人からヒューマンメタニューモウイルス、基幹定点の気管支炎患者からヒューマンメタニューモウイルスが検出されています。なお、小児科定点のinf.AH3型が分離された1人とInf.B型(Victoria系統)が分離された1人、内科定点のInf.B型(山形系統)が分離された1人はヒトコロナウイルスとの重複、小児科定点のInf.B型(山形系統)が分離された1人はヒューマンメタニューモウイルスとの重複検出例でした。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

3月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から20件、定点以外の医療機関等からは2件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2)、チフス菌、サルモネラが検出されました。

その他の感染症の検体受付は小児科定点から7件で、A群溶血性レンサ球菌が5件検出され、基幹定点からは黄色ブドウ球菌が4件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が4件検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(3月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	3月			2013年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	20	2	1	35	5
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管出血性大腸菌			1			4
チフス菌		1			3	
サルモネラ		16			16	
不検出	0	3	1	1	15	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	3月			2013年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	7	8	0	18	14	13
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2			2		
	T6			2		
	T4			4		
	T28			2		
	T B3264			2		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		4			6	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	
インフルエンザ菌				1		1
肺炎球菌				1	2	
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌		4		2	4	
結核菌						10
不検出	1	0	0	1	0	0

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成25年2月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年3月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年2月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成25年2月)

平成25年2月の総アクセス数は、166,411件でした。主な内訳は、感染症69.5%、食品衛生10.1%、保健情報6.4%、検査情報月報4.4%、生活環境衛生1.8%、薬事1.0%でした。

(2) アクセス順位 (平成25年2月)

2月のアクセス順位(表1)は、第1位が「衛生研究所トップページ」、第2位が「クロストリジウム-デフィシル感染症について」、第3位が「風しんについて」でした。

2月の総アクセス数は、前月比で約11%の減少となっています。感染症に関するアクセス数が多くを占めています。今月は、クロストリジウム-デフィシル感染症や風しんに対する関心が高くなっています。さら

に、ジアルジア症におけるアクセスが増加しました。感染性胃腸炎やマイコプラズマ肺炎も流行しており、臨時情報などへのアクセスが増加しています。引き続き、手洗いやうがいによる予防対策が大切です。

また、マイコプラズマ肺炎のアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成25年第5週(1月28日～2月3日)0.77、第6週(2月4日～10日)0.56、第7週(2月11日～17日)0.48、第8週(2月18日～24日)0.49となって、推移しています。

表1 平成25年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	衛生研究所トップページ	5,665
2	クロストリジウム-デフィシル感染症について	4,163
3	風しんについて	3,875
4	感染症発生状況	3,388
5	ジアルジア症について	3,293
6	インフルエンザについて	3,184
7	横浜市感染症情報センター	2,855
8	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	2,787
9	臨時情報	2,690
10	マイコプラズマ肺炎について	2,666

データ提供:総務局IT活用推進課

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成24年10月改訂

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「ロタウイルスによる感染性胃腸炎」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rotal.html>

「感染症発生状況」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/surveillance/>

「風しん」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年3月）

平成25年3月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成25年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
クラミジアの検査について	1	感染症・疫学情報課
リステリア症の塩素殺菌について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成25年3月）

平成25年3月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 平成25年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月 4日	百日咳について	更新
3月 5日	感染症に気をつけよう(3月号)	掲載
3月 6日	グラフで見るインフルエンザ迅速検査キットによる型別発生状況(第9週まで)	掲載
3月 7日	横浜市インフルエンザ流行情報9号	掲載
3月 7日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について	掲載
3月 7日	百日咳について	更新
3月 8日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について	更新
3月14日	横浜市インフルエンザ流行情報10号	更新
3月14日	風しんの発生状況	掲載
3月15日	マイコプラズマ肺炎について	更新
3月18日	◆お知らせ◆ 感染症法が一部改正【届出基準・届出様式】	変更
3月22日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成24年)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】